

壇 しつけ糸するする抜けて春の果  
壇 虚子の忌の大浴場の蛇口かな  
壇 枯色に生れし子猫の暖かし  
壇 親指で涼しく下駄を引っ掛け  
壇 六月に入りし五月の忘れ物  
壇 梅雨の子の合羽ふくらむランドセル  
壇 梅雨の日々傘の折目の消えずあり  
壇 蟬の声寄せ付けず滝轟けり  
壇 夏瘦せて乳の出悪しき牧の牛  
壇 二等辺三角形も夏瘦せて  
壇 組み立てて素麺流し試しをる  
壇 うつ伏せの文庫昼寝の腹の上  
壇 祭果て提灯残る夜更かな  
壇 明滅の如くひらひら揚羽蝶  
壇 太陽の億万分の一の蟻  
壇 鯖缶に鯖の絵、猫缶に猫の絵  
壇 ホルマリン漬にもならず蟬の殻

壇 蟬時雨鳩も鴉もうるさから  
壇 夏草のベンチの丈を越さんとす  
壇 揚花火開かんとして息を止め  
壇 菊人形の見事な解説文を読む  
壇 送り火の消えたる跡を掃き清め  
壇 年輪の密なる冬の来りけり  
壇 吹雪く夜のつひに産声あげにけり  
壇 黒電話枯野の中に咳けり  
壇 懐の暖かそうな山眠る  
壇 凍滝の中に凍つてをりし虹  
壇 若人に昭和生れのなき炬燵  
壇 七五三ちやほやされてぐつたりと  
壇 浮寝鳥ゆつくり廻りつつ流る  
壇 押してみる柳葉魚の腹や少し凹む  
壇 蟠螭の腹引きずつて枯れ初むる  
壇 落葉してパキッと割るるチョコレート  
壇 踏まれたる落葉の横の落葉かな

壇 春はあけぼのつひにうぶさああげにけり

壇 ホルマリン漬にもならず蟬の殻

壇 落葉道チョコをパキッと割りにけり

壇 しつけ糸するする抜けて春の果

壇 蟬時雨鳩も鴉もうるさかろ

壇 大方は空家なりけり枯木村

壇 虚子の忌の大浴場の蛇口かな

壇 夏草がベンチの丈を越さんとす

壇 木星から見ゆる土星のお正月

壇 枯色に生れし子猫も暖かし

壇 揚花火開かんとして息を止め

壇 東の果の日出づる國の御代の春

壇 親指で涼しく下駄をつつかけて

壇 送り火の消えたる跡を掃き清め

壇 年輪の密なる冬の来りけり

壇 六月に入りし五月の忘れ物

壇 電話線枯野の果の果までも

壇 梅雨の子の合羽ふくらむランドセル

壇 懐の暖かさうに山眠る

壇 二等辺三角形も夏瘦せて

壇 若人に昭和生れのなき炬燵

壇 組み立てて素麺流し試しをる

壇 七五三ちやほやされてぐつたりと

壇 文庫本昼寝の胸にうつ伏せに

壇 烧く前の柳葉魚の腹を押してみる

壇 明滅の如くひらひら揚羽蝶

壇 蟠螂の腹引きずつて枯れ初むる

壇 太陽の億万分の一の蟻

2025・6・19【俳壇賞2025 At-3全126句】選26句

壇 春はあけぼのつひにうぶ(ゑあげ)にけり  
壇 しつけ糸するする抜けて春の果  
壇 虚子の忌の大浴場の蛇口かな  
壇 枯色の子猫なれども暖かし  
壇 親指で涼しく下駄をつつかけて  
壇 六月に入りし五月の忘れ物  
壇 梅雨の子の合羽ふくらむランドセル  
壇 二等辺三角形も夏瘦せて  
壇 組み立てて素麺流し試運転  
壇 文庫本昼寝の胸にうつ伏せに  
壇 明滅の如くひらひら揚羽蝶  
壇 太陽の億万分の一の蟻

壇 ホルマリン漬にもならず蟬の殻  
壇 蟬時雨鳩も鴉もうるさかろ  
壇 夏草がベンチの丈を越さんとす  
壇 送り火の消えたる跡を掃き清め  
壇 年輪の密なる冬の来りけり  
壇 電話線枯野の果の果までも  
壇 山眠るその懐の鳥獸  
壇 若人に昭和生れのなき炬燵  
壇 七五三ちやほやされてゐたりけり  
壇 燒く前の柳葉魚の腹を押してみる  
壇 落葉道チョコをパキンと割りにけり  
壇 大方は空家なりけり枯木村

2025・6・20【俳壇賞2025 At-4全135句】選26句

12行3段組14ボ 2025年6月20日 18:17 ~桐10

壇 春はあけぼの待ちに待ちたる産声が

壇 ホルマリン漬にもならず蟬の殻

壇 東の果の日出づる國の御代の春

壇 虚子の忌の大浴場の蛇口かな

壇 蟬時雨鳩も鴉もうるさかろ

壇 木星から見ゆる土星のお正月

壇 枯色の子猫を抱けば暖かし

壇 二等辺三角形も夏瘦せて

壇 しつけ糸するする抜けて春の果

壇 送り火の消えたる跡を掃き清め

壇 六月に入りし五月の忘れ物

壇 年輪の密なる冬の来りけり

壇 梅雨の子の合羽ふくらむランドセル

壇 七五三ちやほやされてゐたりけり

壇 夏草がベンチの丈を越え始む

壇 山眠るその懐の鳥獸

壇 文庫本昼寝の胸にうつ伏せに

壇 電話線枯野の果の果までも

壇 組み立てし素麺流し試運転

壇 落葉道パキンと割つてチョコレート

壇 親指で涼しく下駄をつつかけて

壇 若人に昭和生れのなき炬燵

壇 明滅の如くひらひら揚羽蝶

壇 焼く前の柳葉魚の腹を押してみる

壇 太陽の億万分の一の蟻

壇 大方は空家なりけり枯木村

- 壇 奥様は魔女にあらねど花吹雪 壇 親指で涼しく下駄をつつかけて 壇 電話線枯野の果の果までも  
壇 虚子の忌の大浴場の蛇口かな 壇 太陽の億万分の一の蟻 壇 落葉道パキンと割つてチョコレート  
壇 枯色の子猫を抱けば暖かし 壇 ホルマリン漬にもならず蟬の殻 壇 大方は空家なりけり枯木村  
壇 しつけ糸するする抜けて春の果 壇 蝉時雨鳩も鴉もうるさから 壇 長きもの短く切つて根深汁  
壇 六月に入りし五月の忘れ物 壇 人の血を吸ひし蚊もくふ蚊喰鳥 壇 東の果の日出づる国の御代の春  
壇 眩しさは制服にこそ更衣 壇 二等辺三角形も夏瘦せて 壇 吹雪く夜のつひに産声あげにけり  
壇 梅雨の子の合羽ふくらむランドセル 壇 送り火の消えたる跡を掃き清め  
壇 夏草がベンチの丈を越え始む 壇 天高くオリンピックの馬場馬術  
壇 釣堀も箱庭もある宿屋かな 壇 年輪の密なる冬の来りけり  
壇 文庫本昼寝の胸にうつ伏せに 壇 七五三ちやほやされてゐたりけり  
壇 取れたての胡瓜につけて味噌冷た 壇 山眠るその懐の鳥獸  
壇 組み立てて試し流しの素麺よ 壇 先頭は子狐の持つ狐火か

2025・7・14【俳壇賞2025 At-6全92】選29句

12行3段組14ボ 2025年7月14日 18:49 ^1 桐10

壇 大仏は座して寝釈迦は横たはる

壇 蝉時雨鳩も雀もうるさかる

壇 電話線枯野の果の果までも

壇 奥様は魔女にあらねど花吹雪

壇 明滅の如くひらひら黒揚羽

壇 大方は空家なりけり枯木村

壇 虚子の忌の大浴場の蛇口かな

壇 人の血を吸ひし蚊もくふ蚊喰鳥

壇 長きもの短く切つて根深汁

壇 枯色の子猫を抱けば暖かし

壇 二等辺三角形も夏瘦せて

壇 水鳥の踵楽しく着水す

壇 六月に入りし五月の忘れ物

壇 送り火の消えたる跡を掃き清め

壇 まだかまだかと産声を待つ吹雪の夜

壇 梅雨の子の合羽ふくらむランドセル

壇 よろよろとのぼり来りて大花火

壇 釣堀の箱庭のある宿屋かな

壇 天高くオリンピックの馬場馬術

壇 文庫本昼寝の胸にうつ伏せに

壇 川底に続く海底秋の暮

壇 取れたての胡瓜につけて味噌冷た

壇 年輪の密なる冬の来りけり

壇 組み立てて試し流しの素麺よ

壇 七五三ちやほやされてゐたりけり

壇 太陽の億万分の一の蟻

壇 山眠るその懷の鳥獸

壇 ホルマリン漬にもならず蟬の殻

壇 落葉道パキンと割つてチョコレート

壇 大仏は座して寝釈迦は横たはる

壇 人の血を吸ひし蚊もくふ蚊喰鳥

壇 水鳥の踵樂しく着水す

壇 奥様は魔女にあらねど花吹雪

壇 二等辺三角形も夏瘦せて

壇 まだかまだかと産声を待つ吹雪の夜

壇 虚子の忌の大浴場の蛇口かな

壇 送り火の消えたる跡を掃き清め

壇 枯色の子猫を抱けば暖かし

壇 天高くオリンピックの馬場馬術

壇 六月に入りし五月の忘れ物

壇 川底に続く海底秋の暮

壇 梅雨の子の合羽ふくらむランドセル

壇 年輪の密なる冬の来りけり

壇 取れたての胡瓜につけて味噌冷た

壇 七五三ちやほやされてゐたりけり

壇 組み立てし流し素麺ながし初む

壇 山眠るその懐の鳥獸

壇 太陽の億万分の一の蟻

壇 落葉道パキンと割つてチョコレート

壇 ホルマリン漬にもならず蟬の殻

壇 電話線枯野の果の果までも

壇 蟬時雨鳩も雀もうるさかる

壇 おほかたは空家なりけり枯木村

壇 明滅の如くひらひら黒揚羽

壇 長きもの短く切つて根深汁

壇 大仏は座して寝釈迦は横たはる

壇 人の血を吸ひし蚊もくふ蚊喰鳥

壇 水鳥の踵樂しく着水す

壇 奥様は魔女にあらねど花吹雪

壇 二等辺三角形も夏瘦せて

壇 まだかまだかと産声を待つ吹雪の夜

壇 虚子の忌の大浴場の蛇口かな

壇 送り火の消えたる跡を掃き清め

壇 枯色の子猫を抱けば暖かし

壇 天高くオリンピックの馬場馬術

壇 六月に入りし五月の忘れ物

壇 川底に続く海底秋の暮

壇 梅雨の黄の合羽に出張るランドセル

壇 年輪の密なる冬の来りけり

壇 取れたての胡瓜につけて味噌冷た

壇 七五三ちやほやされてゐたりけり

壇 組み立てて素麺流し流し初む

壇 山眠るその懐の鳥獸

壇 太陽の億万分の一の蟻

壇 落葉道パキンと割つてチョコレート

壇 ホルマリン漬にもならず蟬の殻

壇 電話線枯野の果の果までも

壇 蟬時雨鳩も雀もうるさかる

壇 おほかたは空家なりけり枯木村

壇 明滅の如くひらひら黒揚羽

壇 長きもの短く切つて根深汁

2025・7・23【俳壇賞2025 At-9全99】選28句

12行3段組14ボ 2025年7月23日 04:25 ^1 桐10

壇 大仏は座して寝釈迦は横たはる

壇 明滅の如くひらひら黒揚羽

壇 おほかたは空家なりけり枯木村

壇 奥様は魔女にあらねど花吹雪

壇 人の血を吸ひし蚊もくふ蚊喰鳥

壇 長きもの短く切つて根深汁

壇 虚子の忌の大浴場の蛇口かな

壇 二等辺三角形も夏瘦せて

壇 水鳥の踵を効かせ着水す

壇 枯色の子猫を抱けば暖かし

壇 送り火の消えたる跡を掃き清め

壇 まだかまだかと産声を待つ吹雪の夜

壇 蕎の重き花の重きとなりにけり

壇 天高く馬を操る馬場馬術

壇 まだかまだかと産声を待つ吹雪の夜

壇 六月に入りし五月の忘れ物

壇 我が道を行くは糸瓜と南瓜かな

壇 まだかまだかと産声を待つ吹雪の夜

壇 梅雨の黄の合羽に出張るランドセル

壇 川底に続く海底秋の暮

壇 まだかまだかと産声を待つ吹雪の夜

壇 取れたての胡瓜につけて味噌冷た

壇 年輪の密なる冬の来りけり

壇 まだかまだかと産声を待つ吹雪の夜

壇 組み立てて素麺流し流し初む

壇 七五三ちやほやされてゐたりけり

壇 まだかまだかと産声を待つ吹雪の夜

壇 太陽の億万分の一の蟻

壇 山眠るその懐の鳥獸

壇 まだかまだかと産声を待つ吹雪の夜

壇 ホルマリン漬にもならず蟬の殻

壇 落葉道パキンと割つてチョコレート

壇 まだかまだかと産声を待つ吹雪の夜

壇 蝉時雨鳩も雀もうるさかる

壇 電話線枯野の果の果までも

壇 まだかまだかと産声を待つ吹雪の夜

2025・7・23【俳壇賞2025 At-10 全105】選32句

12行3段組14ボ 2025年7月23日 17:24 ^1 × 桐10

- 壇 花瓶から出られずにある春の闇 壇 蝉時雨鳩も雀もうるさかる 壇 電話線枯野の果の果までも  
壇 大仏は座して寝釈迦は横たはる 壇 明滅の如くひらひら黒揚羽 壇 おほかたは空家なりけり枯木村  
壇 奥様は魔女にあらねど花吹雪 壇 人の血を吸ひし蚊もくふ蚊喰鳥 壇 ガス管をガスが通りぬ虎落笛  
壇 虚子の忌の大浴場の蛇口かな 壇 二等辺三角形も夏瘦せて 壇 長きもの短く切つて根深汁  
壇 枯色の子猫を抱けば暖かし 壇 送り火の消えたる跡を掃き清め 壇 水鳥の踵を効かせ着水す  
壇 蕁の重き花の重きとなりにけり 壇 天高く馬操る馬場馬術 壇 止りをる破魔弓飛び去る通過駅  
壇 六月に入りし五月の忘れ物 壇 我が道を行くは糸瓜と南瓜かな 壇 遠火事にわが家と同じ雪が降る  
壇 梅雨の黄の合羽に出張るランドセル 壇 川底に続く海底秋の暮 壇 まだかまだかと産声を待つ吹雪の夜  
壇 取れたての胡瓜につけて味噌冷た 壇 年輪の密なる冬の来りけり  
壇 組み立てて素麺流し流し初む 壇 七五三ちやほやされてゐたりけり  
壇 太陽の億万分の一の蟻 壇 山眠るその懷の鳥獸  
壇 ホルマリン漬にもならず蟬の殻 壇 落葉道パキンと割つてチョコレート

壇 大仏は座して寝釈迦は横たはる

壇 人の血を吸ひし蚊もくふ蚊喰鳥

壇 長きもの短く切つて根深汁

壇 奥様は魔女にあらねど花吹雪

壇 二等辺三角形も夏瘦せて

壇 水鳥の踵を効かせ着水す

壇 虚子の忌の大浴場の蛇口かな

壇 送り火の消えたる跡を掃き清め

壇 止りをる破魔矢飛び去る通過駅

壇 枯色の子猫を抱けば暖かし

壇 天高く馬操る馬場馬術

壇 遠火事にわが家と同じ雪が降る

壇 蕎の重き花の重きとなりにけり

壇 ゆく末は天下の糸瓜、地の南瓜

壇 まだかまだかと産声を待つ吹雪の夜

壇 六月に入りし五月の忘れ物

壇 川底に続く海底秋の暮

壇 まだかまだかと産声を待つ吹雪の夜

壇 梅雨の黄の合羽に出張るランドセル

壇 年輪の密なる冬の来りけり

壇 まだかまだかと産声を待つ吹雪の夜

壇 取れたての胡瓜につけて味噌冷た

壇 山眠るその懐の鳥獸

壇 まだかまだかと産声を待つ吹雪の夜

壇 組み立てて素麺流し流し初む

壇 落葉道パキンと割つてチョコレート

壇 まだかまだかと産声を待つ吹雪の夜

壇 ホルマリン漬にもならず蟬の殻

壇 電話線枯野の果の果までも

壇 まだかまだかと産声を待つ吹雪の夜

壇 蟬時雨鳩も雀もうるさかる

壇 おほかたは空家なりけり枯木村

壇 まだかまだかと産声を待つ吹雪の夜

壇 明滅の如くひらひら黒揚羽

壇 ガス管のガスのスピード虎落笛

壇 まだかまだかと産声を待つ吹雪の夜

2025・7・25【俳壇賞2025 At-12 全110】選0句

壇 大仏は座して寝釈迦は横たはる  
壇 奥様は魔女にあらねど花吹雪  
壇 虚子の忌の大浴場の蛇口かな  
壇 枯色の子猫を抱けば暖かし  
壇 蕉より花の大きくやはらかく  
壇 六月に入りし五月の忘れ物  
壇 梅雨の黄の合羽に出張るランドセル  
壇 取れたての胡瓜につけて味噌冷た  
壇 組み立てて素麺流し流し初む  
壇 ホルマリン漬にもならず蟬の殻  
壇 蟬時雨鳩も雀もうるさかろ  
壇 明滅の如くひらひら黒揚羽

壇 人の血を吸ひし蚊もくふ蚊喰鳥  
壇 二等辺三角形も夏瘦せて  
壇 送り火の消えたる跡を掃き清め  
壇 天高く馬操る馬場馬術  
壇 ゆく末は天下の糸瓜、地の南瓜  
壇 川底に続く海底秋の暮  
壇 年輪の密なる冬の来りけり  
壇 落葉道パキンと割つてチョコレート  
壇 電話線枯野の果の果までも  
壇 来てみれば空家ばかりぞ枯木村  
壇 ガス管のガスのスピード虎落笛

2025・7・25【俳壇賞2025 At-13 全118】選30句

12行3段組14ボ 2025年7月25日 18:00 ~1~ 桐10

壇 大仏は座して寝釈迦は横たはる

壇 明滅の如くひらひら黒揚羽

壇 ガス管のガスのスピード虎落笛

壇 奥様は魔女にあらねど花吹雪

壇 人の血を吸ひし蚊もくふ蚊喰鳥

壇 長きもの短く切つて根深汁

壇 虚子の忌の大浴場の蛇口かな

壇 二等辺三角形も夏瘦せて

壇 水鳥の踵を効かせ着水す

壇 枯色の子猫を抱けば暖かし

壇 送り火の消えたる跡を掃き清め

壇 止りをる破魔矢、飛び去る通過駅

壇 蕉より花の大きくやはらかく

壇 天高く馬を操る馬場馬術

壇 遠火事にわが家と同じ雪が降る

壇 六月に入りし五月の忘れ物

壇 ゆく末は天下の糸瓜、地の南瓜

壇 吹雪く夜のつひに産声あげにけり

壇 梅雨の黄の合羽に出張るランドセル

壇 川底に続く海底秋の暮

壇 吹雪く夜のつひに産声あげにけり

壇 取れたての胡瓜につけて味噌冷た

壇 年輪の密なる冬の来りけり

壇 吹雪く夜のつひに産声あげにけり

壇 組み立てて素麺流し流し初む

壇 山眠るその懐の鳥獸

壇 吹雪く夜のつひに産声あげにけり

壇 東京の人混り避暑の駅

壇 落葉道パキンと割つてチョコレート

壇 吹雪く夜のつひに産声あげにけり

壇 ホルマリン漬にもならず蟬の殻

壇 電話線枯野の果の果までも

壇 吹雪く夜のつひに産声あげにけり

壇 蝉時雨鳩も雀もうるさかる

壇 来てみれば空家ばかりぞ枯木村

壇 吹雪く夜のつひに産声あげにけり

2025・7・25【俳壇賞2025 At-14 全124】選30句

12行3段組14ボ 2025年7月25日 20:19 ^1 桐10

- 壇 大仏は座しぬ寝釈迦は寛ぎぬ 壇 明滅の如くひらひら黒揚羽 壇 ガス管のガスのスピード虎落笛  
壇 奥様は魔女にあらねど花吹雪 壇 人の血を吸ひし蚊もくふ蚊喰鳥 壇 長きもの短く切つて根深汁  
壇 虚子の忌の大浴場の蛇口かな 壇 二等辺三角形も夏瘦せて 壇 水鳥の踵を効かせ着水す  
壇 枯色の子猫を抱けば暖かし 壇 送り火の消えたる跡を掃き清め 壇 止りをる破魔矢、飛び去る通過駅  
壇 蕉より花は大きくやはらかく 壇 天高く大障害馬場馬術かな 壇 遠火事にわが家と同じ雪が降る  
壇 六月に入りし五月の忘れ物 壇 ゆく末は天下の糸瓜、地の南瓜 壇 吹雪く夜のつひに産声あげにけり  
壇 梅雨の黄の合羽に出張るランドセル 壇 川底に続く海底秋の暮 壇  
壇 取れたての胡瓜につけて味噌冷た 壇 年輪の密なる冬の来りけり  
壇 組み立てて素麺流し流し初む 壇 山眠るその懐の鳥獸  
壇 東京の人混り避暑の駅 壇 落葉道パキンと割つてチョコレート  
壇 ホルマリン漬にもならず蟬の殻 壇 電話線枯野の果の果までも  
壇 蝉時雨鳩も雀もうるさかる 壇 来てみれば空家ばかりぞ枯木村

2025・7・26【俳壇賞2025 At-15 全140】選30句

12行3段組14ボ 2025年7月26日 08:52 ^1 桐10

- 壇 大仏は座しぬ寝釈迦は寛ぎぬ  
壇 奥様は魔女にあらねど花吹雪  
壇 虚子の忌の大浴場の蛇口かな  
壇 枯色の子猫を抱けば暖かし  
壇 蕉より花は大きくやはらかく  
壇 六月に入りし五月の忘れ物  
壇 梅雨の黄の合羽に出張るランドセル  
壇 取れたての胡瓜につけて味噌冷た  
壇 組み立てて素麺流し流し初む  
壇 東京の人があろぞ避暑の駅  
壇 万縁に光るは斧よ鋸よ  
壇 ホルマリン漬にもならず蟬の殻
- 壇 蟬時雨鳩も雀もうるさから  
壇 明滅の如くひらひら黒揚羽  
壇 人の血を吸ひし蚊もくふ蚊喰鳥  
壇 送り火の消えたる跡を掃き清め  
壇 天高く大障害馬場馬術かな  
壇 ねがはくは天下の糸瓜、地の南瓜  
壇 川底に続く海底秋の暮  
壇 年輪の密なる冬の来りけり  
壇 山眠るその懐の鳥獸  
壇 落葉道パキンと割つてチョコレート  
壇 電話線枯野の果の果までも  
壇 来てみれば空家ばかりぞ枯木村
- 壇 ガス管のガスのスピード虎落笛  
壇 長きもの短く切つて根深汁  
壇 水鳥の踵を効かせ着水す  
壇 止りをる破魔矢、飛び去る通過駅  
壇 遠火事にわが家と同じ雪が降る  
壇 吹雪く夜のつひに産声あげにけり

2025・7・26【俳壇賞2025 At-16 全14】選30句

12行3段組14ボ 2025年7月26日 15:47 ^1 桐10

壇 大仏は座しぬ寝釈迦はゆつたりと

壇 蝉時雨鳩も雀もうるさかる

壇 ガス管のガスのスピード虎落笛

壇 奥様は魔女にあらねど花吹雪

壇 明滅の如くひらひら黒揚羽

壇 長きもの短く切つて根深汁

壇 虚子の忌の大浴場の蛇口かな

壇 人の血を吸ひし蚊もくふ蚊喰鳥

壇 水鳥の踵を効かせ着水す

壇 枯色の子猫を抱けば暖かし

壇 送り火の消えたる跡を掃き清め

壇 止りをる破魔矢、飛び去る通過駅

壇 蕾より花は大きくやはらかく

壇 天高く大障害馬場馬術かな

壇 遠火事にわが家と同じ雪が降る

壇 六月に入りし五月の忘れ物

壇 ゆくゆくは天下の糸瓜、地の南瓜

壇 吹雪く夜のつひに産声あげにけり

壇 梅雨の黄の合羽に出張るランドセル

壇 川底に続く海底秋の暮

壇 遠火事にわが家と同じ雪が降る

壇 取れたての胡瓜につけて味噌冷た

壇 年輪の密なる冬の来りけり

壇 遠火事にわが家と同じ雪が降る

壇 組み立てて素麺流し流し初む

壇 山眠るその懐の鳥獸

壇 遠火事にわが家と同じ雪が降る

壇 東京の人があろぞ避暑の駅

壇 落葉道パキンと割つてチョコレート

壇 遠火事にわが家と同じ雪が降る

壇 万縁に光るは斧よ鋸よ

壇 電話線枯野の果の果までも

壇 遠火事にわが家と同じ雪が降る

壇 ホルマリン漬にもならず蟬の殻

壇 来てみれば空家ばかりぞ枯木村

壇 遠火事にわが家と同じ雪が降る

2025・7・28【俳壇賞2025 At-17 全143】選29句

壇 啓蟻や長き線路の曲がるとも  
壇 大仏は座して寝釈迦は横たはる  
壇 奥様は魔女の末裔花吹雪  
壇 虚子の忌の大浴場の蛇口かな  
壇 枯色の子猫を抱けば暖かし  
壇 蕎より花は大きくやはらかく  
壇 六月に入りし五月の忘れ物  
壇 梅雨の黄の合羽に出張るランドセル  
壇 取れたての胡瓜につけて味噌冷た  
壇 組み立てて素麺流し流し初む  
壇 東京の人ぞぞぞ避暑の駅  
壇 ホルマリン漬にもならず蟬の殻

壇 蟬時雨鳩も雀もうるさから  
壇 人の血を吸ひし蚊もくふ蚊喰鳥  
壇 送り火の消えたる跡を掃き清め  
壇 天高く大障害馬場馬術かな  
壇 ゆくゆくは天下の糸瓜、地の南瓜  
壇 川底に続く海底秋の暮  
壇 年輪の密なる冬の来りけり  
壇 山眠るその懐の鳥獸  
壇 落葉道パキンと割つてチョコレート  
壇 電話線枯野の果の果までも  
壇 来てみれば空家ばかりぞ枯木村  
壇 ガス管をガスが流るる虎落笛

2025・7・29【俳壇賞2025 At-18 全152】選29句

12行3段組14ボ 2025年7月29日 10:32 ^1 v 桐10

- 壇 啓蟻の現場の声の小さくとも  
壇 大仏は座して寝釈迦は太々と  
壇 奥様は魔女の末裔花吹雪  
壇 虚子の忌の大浴場の蛇口かな  
壇 枯色の子猫を抱けば暖かし  
壇 蕎より花は大きくやはらかく  
壇 六月に入りし五月の忘れ物  
壇 梅雨の黄の合羽に出張るランドセル  
壇 取れたての胡瓜につけて味噌冷た  
壇 組み立てて素麺流し流し初む  
壇 東京の人ぞぞぞ避暑の駅  
壇 ホルマリン漬にもならず蟬の殻
- 壇 蝉時雨鳩も雀もうるさから  
壇 人の血を吸ひし蚊もくふ蚊喰鳥  
壇 送り火の消えたる跡を掃き清め  
壇 天高く大障害馬場馬術かな  
壇 ゆくゆくは天下の糸瓜、地の南瓜  
壇 川底に続く海底秋の暮  
壇 年輪の密なる冬の来りけり  
壇 山眠るその懐の鳥獸  
壇 電話線枯野の果の果までも  
壇 落葉道パキンと割つてチョコレート  
壇 来てみれば空家ばかりぞ枯木村  
壇 ガス管をガスが流るる虎落笛

2025・7・29【俳壇賞2025 At-19 全169】選30句

12行3段組14ボ 2025年7月29日 17:04 ^1 桐10

壇 啓蟻の現場の声の小さくとも

壇 ホルマリン漬にもならず蟬の殻

壇 ガス管をガスが流るる虎落笛

壇 大仏は座して寝釈迦は手枕に

壇 蟬時雨鳩も雀もうるさかろ

壇 長きもの短く切つて根深汁

壇 奥様は魔女の末裔花吹雪

壇 人の血を吸ひし蚊もくふ蚊喰鳥

壇 水鳥の踵を効かせ着水す

壇 虚子の忌の大浴場の蛇口かな

壇 送り火の消えたる跡を掃き清め

壇 止りをる破魔矢、飛び去る通過駅

壇 枯色の子猫を抱けば暖かし

壇 天高く大障害馬場馬術かな

壇 遠火事にわが家と同じ雪が降る

壇 蕎より花は大きくやはらかく

壇 ゆくゆくは天下の糸瓜、地の南瓜

壇 吹雪く夜のつひに産声あげにけり

壇 六月に入りし五月の忘れ物

壇 川底に続く海底秋の暮

壇 吹雪く夜のつひに産声あげにけり

壇 梅雨の黄の合羽に出張るランドセル

壇 年輪の密なる冬の来りけり

壇 吹雪く夜のつひに産声あげにけり

壇 取れたての胡瓜につけて味噌冷た

壇 山眠るその懐の鳥獸

壇 吹雪く夜のつひに産声あげにけり

壇 組み立てて素麺流し流し初む

壇 電話線枯野の果の果までも

壇 吹雪く夜のつひに産声あげにけり

壇 東京の人ぞぞぞぞ避暑の駅

壇 落葉道パキンと割つてチョコレート

壇 吹雪く夜のつひに産声あげにけり

壇 足の裏乗せて涼しや下駄の上

壇 来てみれば空家ばかりぞ枯木村

壇 吹雪く夜のつひに産声あげにけり

2025・7・30【俳壇賞2025 At-20 全15】選30句

12行3段組14ボ 2025年7月30日 09:31 ~ 桐10

- 壇 奥様は魔女の末裔花吹雪  
壇 虚子の忌の大浴場の蛇口かな  
壇 枯色の子猫を抱けば暖かし  
壇 蕎より花は大きくやはらかく  
壇 六月に入りし五月の忘れ物  
壇 噴水に賽銭投げて帰国せり  
壇 乾びたる貌に真白きパナマ帽  
壇 東京の人ぞぞろ避暑の駅  
壇 取れたての胡瓜につけて味噌冷た  
壇 組み立てて素麺流し流し初む  
壇 蝉時雨鳩も雀もうるさかる  
壇 人の血を吸ひし蚊もくふ蚊喰鳥  
壇 足の裏乗せて涼しや下駄の上  
壇 送り火の消えたる跡を掃き清め  
壇 天高く大障害馬場馬術かな  
壇 ゆくゆくは天下の糸瓜、地の南瓜  
壇 川底に続く海底秋の暮  
壇 年輪の密なる冬の来りけり  
壇 山眠るその懐の鳥獸  
壇 電話線枯野の果の果までも  
壇 落葉道パキンと割つてチョコレート  
壇 来てみれば空家ばかりぞ枯木村  
壇 ガス管をガスが流るる虎落笛

2025・7・31【俳壇賞2025 At-21 全15】選30句

12行3段組14ボ 2025年7月31日 08:38 ^1 桐10

壇 奥様は魔女の血を引く花吹雪

壇 人の血を吸ひし蚊もくふ蚊喰鳥

壇 長きもの短く切つて根深汁

壇 虚子の忌の大浴場の蛇口かな

壇 足の裏乗せて涼しや下駄の上

壇 水鳥の踵を効かせ着水す

壇 枯色の子猫を抱けば暖かし

壇 送り火の消えたる跡を掃き清め

壇 止りをる破魔矢、飛び去る通過駅

壇 蕎より花は大きくやはらかく

壇 天高く大障害馬場馬術かな

壇 角の家更地となりぬ霜柱

壇 六月に入りし五月の忘れ物

壇 ゆくゆくは天下の糸瓜、地の南瓜

壇 遠火事にわが家と同じ雪が降る

壇 梅雨の黄の合羽に出張るランドセル

壇 川底に続く海底秋の暮

壇 吹雪く夜のつひに産声あげにけり

壇 噴水に賽銭投げて帰国せり

壇 年輪の密なる冬の来りけり

壇 乾びたる貌に真白きパナマ帽

壇 山眠るその懐の鳥獸

壇 東京の人ぞぞぞ避暑の駅

壇 電話線枯野の果の果までも

壇 取れたての胡瓜につけて味噌冷た

壇 落葉道パキンと割つてチョコレート

壇 組み立てし素麺流し流し初む

壇 来てみれば空家ばかりぞ枯木村

壇 蝉時雨鳩も雀もうるさかる

壇 ガス管をガスが流るる虎落笛

- 壇 奥様は魔女ダーリンに花吹雪  
壇 百番も百一番も春の星  
壇 虚子の忌の大浴場の蛇口かな  
壇 蕎より花は大きくやはらかく  
壇 六月に入りし五月の忘れ物  
壇 梅雨の黄の合羽に出張るランドセル  
壇 噴水に賽銭投げて帰国せり  
壇 乾びたる貌に真白きパナマ帽  
壇 谷川に晒せど子らの日焼かな  
壇 取れたての胡瓜につけて味噌冷た  
壇 組み立てし素麺流し流し初む  
壇 人の血を吸ひし蚊もぐふ蚊喰鳥
- 壇 容赦なく虫切り刻む草刈機  
壇 太陽も西瓜も丸く大いなる  
壇 送り火の消えたる跡を掃き清め  
壇 天高く大障害馬場馬術かな  
壇 ゆくゆくは天下の糸瓜、地の南瓜  
壇 川底に続く海底秋の暮  
壇 角の家更地となりぬ月今宵  
壇 年輪の密なる冬の来りけり  
壇 山眠るその懐の鳥獸  
壇 電話線枯野の果の果までも  
壇 落葉道パキンと割つてチョコレート  
壇 来てみれば空家ばかりぞ枯木村

- 壇 花結びにも蝶結びにも春の風 壇 容赦なく虫切り刻む草刈機 壇 水鳥の踵を効かせ着水す  
壇 一番星も百番星も春の星 壇 太陽も西瓜も丸く重たけれ 壇 止りをる破魔矢、飛び去る通過駅  
壇 虚子の忌の大浴場の蛇口かな 壇 送り火の消えたる跡を掃き清め 壇 遠火事にわが家と同じ雪が降る  
壇 奥様は魔女、ダーリンに花吹雪 壇 天高く大障害馬場馬術かな 壇 吹雪く夜のつひに産声あげにけり  
壇 六月に入りし五月の忘れ物 壇 ゆくゆくは天下の糸瓜、地の南瓜 壇  
壇 梅雨の黄の合羽に出張るランドセル 壇 川底に続ぐ海底秋の暮  
壇 噴水に賽銭投げて帰国せり 壇 角の家更地となりぬ月今宵  
壇 乾びたる貌に真白きパナマ帽 壇 年輪の密なる冬の来りけり  
壇 谷川に晒せど子らの日焼かな 壇 山眠るその懐の鳥獸  
壇 組み立てし素麺流し流し初む 壇 来てみれば空家ばかりぞ枯木村  
壇 取れたての胡瓜につけて味噌冷た 壇 ガス管をガスが流るる虎落笛  
壇 たんまりと血を吸ひし蚊を蚊喰鳥 壇 長きもの短く切つて根深汁

2025・9・4【俳壇賞2025 A七-24 全128句】選23句

12行3段組14ボ 2025年9月4日 08:29 ^1 桐10

壇 花結びにも蝶結びにも春の風

壇 太陽も西瓜も丸く重たけれ

壇 一番星も百番星も春の星

壇 送り火の消えたる跡を掃き清め

壇 奥様は魔女、ダーリンに花吹雪

壇 天高く大障害馬場馬術かな

壇 六月に入りし五月の忘れ物

壇 ゆくゆくは天下の糸瓜、地の南瓜

壇 梅雨の黄の合羽に出張るランドセル

壇 川底に続く海底秋の暮

壇 噴水に賽銭投げて帰国せり

壇 月天心更地となりし角の家

壇 乾びたる貌に真白きパナマ帽

壇 年輪の密なる冬の来りけり

壇 谷川に日々晒せども日焼の子

壇 長きもの短く切つて根深汁

壇 明日からの素麺流し組み上がる

壇 止りをる破魔矢、飛び去る通過駅

壇 取れたての胡瓜につけて味噌冷た

壇 遠火事にわが家と同じ雪が降る

壇 たんまりと血を吸ひし蚊を蚊喰鳥

壇 吹雪く夜のつひに産声あげにけり

壇 容赦なく虫も切り裂く草刈機

2025・9・14【俳壇賞2025 At-25 全138】選25句

12行3段組14ボ 2025年9月14日 22:50 ^1 桐10

壇 花結びにも蝶結びにも春の風

壇 容赦なく虫も切り裂く草刈機

壇 吹雪く夜のつひに産声あげにけり

壇 紙から土へ封切の種子袋

壇 太陽も西瓜も丸く重たけれ

壇 奥様は魔女、ダーリンに花吹雪

壇 送り火の消えしあたりを掃き清め

壇 六月に入りし五月の忘れ物

壇 天高く大障害馬場馬術かな

壇 梅雨の黄の合羽に出張るランドセル

壇 ゆくゆくは天下の糸瓜、地の南瓜

壇 そのなかに怒号絶叫雲の峰

壇 川底に続く海底秋の暮

壇 噴水に賽銭投げて帰国せり

壇 月天心更地となりし角の家

壇 乾びたる貌に真白きパナマ帽

壇 年輪の密なる冬の来りけり

壇 谷川に日々晒せども子の日焼

壇 長きもの短く切つて根深汁

壇 明日からの素麺流し組み上げて

壇 地下街の硝子輝けクリスマス

壇 取れたての胡瓜につけて味噌冷た

壇 止りをる破魔矢、飛び去る通過駅

壇 たんまりと血を吸ひし蚊を蚊喰鳥

壇 遠火事にわが家と同じ雪が降る

壇 花結びにも蝶結びにも春の風

壇 太陽も西瓜も丸く重たけれ

壇 奥様は魔女、ダーリンに花吹雪

壇 送り火の消えしあたりを掃き清め

壇 六月に入りし五月の忘れ物

壇 天高く大障害馬場馬術かな

壇 梅雨の黄の合羽に出張るランドセル

壇 ゆくゆくは天下の糸瓜、地の南瓜

壇 そのなかの怒号絶叫雲の峰

壇 川底に続く海底秋の暮

壇 噴水に賽銭投げて帰国せり

壇 月天心更地となりし角の家

壇 乾びたる貌に真白きパナマ帽

壇 年輪の密なる冬の来りけり

壇 谷川に日々晒せども子の日焼

壇 長きもの短く切つて根深汁

壇 明日からの素麺流し組み上げて

壇 地下街の硝子に映ゆるクリスマス

壇 取れたての胡瓜につけて味噌冷た

壇 止りをる破魔矢、飛び去る通過駅

壇 たんまりと血を吸ひし蚊を蚊喰鳥

壇 遠火事にわが家と同じ雪が降る

壇 容赦なく虫も切り裂く草刈機

壇 吹雪く夜のつひに産声あげにけり

2025・9・16【俳壇賞2025 At-27 全158】選25句

12行3段組14ボ 2025年9月16日 08:35 ^1 桐10

壇 花結びにも蝶結びにも春の風

壇 容赦なく虫も切り裂く草刈機

壇 吹雪く夜のつひに産声あげにけり

壇 足場して梁や柱や春の雷

壇 太陽も西瓜も丸く重たけれ

壇 奥様は魔女、ダーリンに花吹雪

壇 送り火の消えしあたりを掃き清め

壇 六月に入りし五月の忘れ物

壇 天高く大障害馬場馬術かな

壇 梅雨の黄の合羽に出張るランドセル

壇 ゆくゆくは天下の糸瓜、地の南瓜

壇 そのなかの怒号絶叫雲の峰

壇 川底に続く海底秋の暮

壇 噴水に賽銭投げて帰国せり

壇 月こよひ更地となりし角の家

壇 乾びたる貌に真白きパナマ帽

壇 年輪の密なる冬の来りけり

壇 日焼の子日々谷川に晒せども

壇 長きもの短く切つて根深汁

壇 明日からの素麺流し組み立てて

壇 地下街は硝子映えしてクリスマス

壇 取れたての胡瓜につけて味噌冷た

壇 止りをる破魔矢、飛び去る通過駅

壇 たんまりと血を吸ひし蚊を蚊喰鳥

壇 遠火事にわが家と同じ雪が降る

2025・9・17【俳壇賞2025 At-28 全154】選30句

12行3段組14ボ 2025年9月17日 18:23 ^1 桐10

- 壇 花結びにも蝶結びにも春の風 壇 日焼の子日々谷川に晒せども 壇 長きもの短く切つて根深汁  
壇 雛壇に呵々大笑はなかりけり 壇 明日からの素麺流し組み立てて 壇 地下街は硝子映えしてクリスマス  
壇 四国にはスタンプラリー藤の花 壇 取れたての胡瓜につけて味噌冷た 壇 止りをる破魔矢、飛び去る通過駅  
壇 奥様は魔女、ダーリンに花吹雪 壇 たんまりと血を吸ひし蚊を蚊喰鳥 壇 大氷柱なりヒョウチュウと言ふべかり  
壇 土砂降りのあの遠足を語り草 壇 容赦なく虫も切り裂く草刈機 壇 遠火事にわが家と同じ雪が降る  
壇 細く長く風船の尾も空をゆく 壇 太陽も西瓜も丸く重たけれ 壇 吹雪く夜のつひに産声あげにけり  
壇 巣箱にはカーテンのなき目覚めかな 壇 送り火の消えしあたりを掃き清め  
壇 六月に入りし五月の忘れ物 壇 天高く大障害馬場馬術かな  
壇 梅雨の黄の合羽に出張るランドセル 壇 ゆくゆくは天下の糸瓜、地の南瓜  
壇 そのなかの怒号絶叫雲の峰 壇 川底に続く海底秋の暮  
壇 噴水に賽銭投げて帰国せり 壇 月こよひ更地となりし角の家  
壇 乾びたる貌に真白きパナマ帽 壇 年輪の密なる冬の来りけり

壇 花結びにも蝶結びにも春の風  
壇 雛壇に呵々大笑はなかりけり  
壇 四国にはスタンプラリー藤の花  
壇 奥様は魔女、ダーリンに花吹雪  
壇 土砂降りのあの遠足を語り草  
壇 細く長く風船の尾も空をゆく  
壇 六月に入りし五月の忘れ物  
壇 梅雨の黄の合羽に出張るランドセル  
壇 そのなかの怒号絶叫雲の峰  
壇 噴水に賽銭投げて帰国せり  
壇 乾びたる貌に真白きパナマ帽  
壇 日焼の子日々谷川に晒せども

壇 明日からの素麺流し組み立てて  
壇 取れたての胡瓜につけて味噌冷た  
壇 たんまりと血を吸ひし蚊を蚊喰鳥  
壇 容赦なく虫も切り裂く草刈機  
壇 太陽も西瓜も丸く重たけれ  
壇 送り火の消えしあたりを掃き清め  
壇 天高く大障害馬場馬術かな  
壇 ゆくゆくは天下の糸瓜、地の南瓜  
壇 川底に繞く海底秋の暮  
壇 月こよひ更地となりし角の家  
壇 年輪の密なる冬の来りけり  
壇 長きもの短く切つて根深汁

壇 花結びにも蝶結びにも春の風  
壇 雛壇に呵々大笑はなかりけり  
壇 奥様は魔女、ダーリンに花吹雪  
壇 四国にはスタンプラリー藤の花  
壇 土砂降りのあの遠足を語り草  
壇 細く長く風船の尾も空をゆく  
壇 六月に入りし五月の忘れ物  
壇 梅雨の黄の合羽に出張るランドセル  
壇 そのなかの怒号絶叫雲の峰  
壇 噴水に賽銭投げて帰国せり  
壇 乾びたる貌に真白きパナマ帽  
壇 日焼の子日々谷川に晒せども

壇 明日からの素麺流し組み立てて  
壇 取れたての胡瓜につけて味噌冷た  
壇 たんまりと血を吸ひし蚊を蚊喰鳥  
壇 容赦なく虫も切り裂く草刈機  
壇 太陽も西瓜も丸く重たけれ  
壇 送り火の消えしあたりを掃き清め  
壇 遠火事にわが家と同じ雪が降る  
壇 天高く大障害馬場馬術かな  
壇 ゆくゆくは天下の糸瓜、地の南瓜  
壇 川底に繞く海底秋の暮  
壇 月こよひ更地となりし角の家  
壇 年輪の密なる冬の来りけり  
壇 長きもの短く切つて根深汁

2025・6・20【俳壇賞2025 At-31 全154句】選31句

12行3段組14ボ 2025年9月20日 19:35 ^1 桐10

- 壇 花結びにも蝶結びにも春の風 壇 明日からの素麺流し組み立てて 壇 長きもの短く切つて根深汁  
壇 雛壇に呵々大笑はなかりけり 壇 取れたての胡瓜につけて味噌冷た 壇 地下街は硝子映えしてクリスマス  
壇 奥様は魔女、ダーリンに花吹雪 壇 たんまりと血を吸ひし蚊を蚊喰鳥 壇 止りをる破魔矢、飛び去る通過駅  
壇 四国にはスタンプラリー藤の花 壇 容赦なく虫も切り裂く草刈機 壇 大氷柱なりヒョウチュウと呼ぶべかり  
壇 土砂降りのあの遠足を語り草 壇 太陽も西瓜も丸く重たけれ 壇 遠火事にわが家と同じ雪が降る  
壇 細く長く風船の尾も空をゆく 壇 送り火の消えしあたりを掃き清め 壇 吹雪く夜のつひに産声あげにけり  
壇 六月に入りし五月の忘れ物 壇 天高く大障害馬場馬術かな 壇 日本は白地に赤く雪兎  
壇 梅雨の黄の合羽に出張るランドセル 壇 ゆくゆくは天下の糸瓜、地の南瓜 壇 乾びたる貌に真白きパナマ帽  
壇 噴水に賽銭投げて帰国せり 壇 川底に繞く海底秋の暮 壇 年輪の密なる冬の来りけり  
壇 乾びたる貌に真白きパナマ帽 壇 月こよひ更地となりし角の家 壇 この駅を支線の出づる時雨かな  
壇 日焼の子日々谷川に晒せども

2025・9・22【俳壇賞2025 At-32 全151句】選29句

12行3段組14ボ 2025年9月22日 19:05 ^1 v 桐10

- 壇 花結びにも蝶結びにも春の風 壇 明日からの素麺流し組み立てて 壇 止りをる破魔矢、飛び去る通過駅  
壇 雛壇に呵々大笑はなかりけり 壇 取れたての胡瓜につけて味噌冷た 壇 氷柱太々ヒヨウチュウと呼ぶべかり  
壇 奥様は魔女、ダーリンに花吹雪 壇 たんまりと血を吸ひし蚊を蚊喰鳥 壇 遠火事にわが家と同じ雪が降る  
壇 四国にはスタンプラリー藤の花 壇 容赦なく虫も切り裂く草刈機 壇 吹雪く夜のつひに産声あげにけり  
壇 待て待てと風船の尾も空をゆく 壇 天高く大障害馬場馬術かな 壇 日本は白地に赤く雪兎  
壇 土砂降りのあの遠足を語り草 壇 ゆくゆくは天下の糸瓜、地の南瓜 壇 地下街は硝子映えしてクリスマス  
壇 六月に入りし五月の忘れ物 壇 川底に続く海底秋の暮 壇 乾びたる貌に真白きパナマ帽  
壇 梅雨の黄の合羽に出張るランドセル 壇 月こよひ更地となりし角の家 壇 長きもの短く切つて根深汁  
壇 そのなかの怒号絶叫雲の峰 壇 年輪の密なる冬の来りけり 壇 日焼の子日々谷川に晒せども  
壇 噴水に賽銭投げて帰国せり 壇 この駅を支線の出づる時雨かな 壇 地下街は硝子映えしてクリスマス

2025・6・24【俳壇賞2025 At 33- 全160句】選30句

12行3段組14ボ 2025年9月24日 06:14 ^1 v 桐10

- 壇 花結びにも蝶結びにも春の風 壇 明日からの素麺流し組み立てて 壇 止りをる破魔矢、飛び去る通過駅  
壇 雛壇に呵々大笑はなかりけり 壇 取れたての胡瓜につけて味噌冷た 壇 氷柱太々ヒヨウチュウと呼ぶべかり  
壇 奥様は魔女、ダーリンに花吹雪 壇 たんまりと血を吸ひし蚊を蚊喰鳥 壇 金屏に金の雨ふる真暗闇  
壇 四国にはスタンプラリー藤の花 壇 容赦なく虫も切り裂く草刈機 壇 遠火事にわが家と同じ雪が降る  
壇 空をゆく風船の尾の長きかな 壇 天高く大障害馬場馬術かな 壇 吹雪く夜のつひに産声あげにけり  
壇 土砂降りのあの遠足を語り草 壇 ゆくゆくは天下の糸瓜、地の南瓜 壇 日本は白地に赤く雪兎  
壇 六月に入りし五月の忘れ物 壇 川底に続く海底秋の暮 壇 地下街は硝子映えしてクリスマス
- 壇 梅雨の黄の合羽に出張るランドセル 壇 月こよひ更地となりし角の家 壇 乾びたる貌に真白きパナマ帽  
壇 そのなかの怒号絶叫雲の峰 壇 年輪の密なる冬の来りけり 壇 長きもの短く切つて根深汁  
壇 噴水に賽銭投げて帰国せり 壇 この駅を支線の出づる時雨かな 壇 日焼の子日々谷川に晒せども  
壇 乾びたる貌に真白きパナマ帽 壇 長きもの短く切つて根深汁 壇 地下街は硝子映えしてクリスマス